

日高高等学校

実施日時	平成30年 10月 29日 (月)
参加者	高校生701名、中学生119名、保育園園児(2園)121名、幼稚園園児(2園)93名、小学生335名、地域住民20名、教職員61名、海外生徒150名、他 計1600名
実施内容	地域合同避難訓練および防災スクール 詳細下記参照

実施内容

＜世界津波の日 2018 高校生サミット in 和歌山 スタディツアーと共同開催＞

(地震避難訓練、津波避難訓練、DVD 学習、心肺蘇生法、パーティション組み立て撤去、搬送法・応急手当、煙体験、消火訓練、避難所運営ゲーム (HUG)、非常食炊き出し配膳訓練、臨時災害放送運営訓練)

＜協力団体＞

御坊市消防署、御坊市役所市民福祉部防災対策課、美浜町防災企画課、道成寺、日高振興局総務県民課、和歌山県情報化推進協議会防災研究部会 (NHK 和歌山放送局、和歌山大学、エフエムワカヤマ、共同通信)、紀州新聞社、御坊警察署

事前の取組

- ・以前から各園や近隣の小学校・地域住民は、地域の避難場所と指定されている本校に避難する訓練をそれぞれ独自で取り組んでおり、本校も独自に地震・津波避難訓練を計画・実施してきた。これまで別々だった避難訓練を合同で行うことにより、より実際に即した形での避難訓練となり、本校及び地域の防災・減災教育につながることから、本校が地域の関係各所に呼びかけ、計画・実施した。本年度で4回目を迎える。
- ・事前に中学1年生から高校3年生にLHRの時間を活用し、本校の防災についてのあり方や考え方、過去の地域合同避難訓練および防災スクールの反省や課題等の学習を実施した。
- ・世界津波の日 2018 高校生サミット in 和歌山

スタディツアー (海外生徒 24 カ国 25 グループが参加) 実施のため、本校担当教員・担当生徒が関係団体 (日高振興局、御坊市消防署) に事前指導・研修を受け、海外生徒に対応するため英語での説明を準備した。

- ・FM 放送機材を用いた臨時災害放送局設置及び運営訓練のため、本校が和歌山県情報化推進協議会防災研究部会、御坊市役所防災対策課と協力し、開設に向けて事前研修 90 分を 3 回行い、本番に備えた。研修内容は、NHK 大阪アナウ

ンサーの方から講義、紀州新聞社・共同通信の記者の方から原稿の書き方、NHK 和歌山放送局アナウンサーの方からアナウンス時の諸注意等について等の研修を行った。

- ・高1・2年生国際交流委員とボランティアを対象として、校外ツアーの事前研修を行った。研修では、美浜町松原地区津波避難場所に行き、美浜町職員から避難場所建設の経緯、そして各設備の説明を受けた。また、校外ツアー実施にむけて、発表の役割分担、英語での原稿作成、そして発表のリハーサルを行った。

主なプログラム

想定は、南海トラフの地震発生、和歌山県内に大津波警報発令とし、10:30に地震発生、避難開始で参加団体と統一した。本校生徒(中高生)及び海外高校生は、グラウンドに集合(地震避難訓練)後、校舎3階以上へ避難(津波避難訓練)した。各4園と小学校・地域住民はそれぞれの避難経路を通り、各施設から本校3階以上の指定場所へ避難した。各4園に高校生3~6名を派遣し、各園の避難訓練に参加した。実際の訓練の様子を園児達とともに体験することで、生徒たちの防災や減災に対する意識の高揚を図り、災害における知識・判断力・行動力を養うことを目的として受け入れて頂いた。地域避難訓練では、各所で御坊警察署に交通整理を、防災スクールでは御坊市消防署のご協力のもと実施した。

避難訓練終了後、防災スクールを実施した。その内容は、中1と高1がDVD学習、中2が心肺蘇生法体験、中3と高3が避難所運営ゲーム(HUG 英語 Ver.)、高2がパーティション組立撤去体験、搬送法体験、煙体験、消火訓練、非常食炊き出し配膳訓練、臨時災害放送運営訓練である。心肺蘇生法体験、搬送法体験、煙体験、消火訓練は御坊市消防署の皆様にご協力頂いた。非常食炊き出し配膳訓練では、高校生が非常食(アルファ米)で約1,000個のおにぎりを作り、本校生徒と海外生徒に配膳した。また、地域住民の方から本校生徒に避難運営ゲーム(HUG)のレクチャーをして頂いた。

臨時災害放送運営訓練では、事前にNHK大阪

放送局の住田功一氏を講師に迎え、「災害時、ラジオはいかに威力を発揮したか」という演題で阪神淡路大震災時での体験談をお話し頂いた。さらに、NHK 和歌山放送局のアナウンサーや新聞社（紀州新聞社、共同通信）の記者の方々、御坊市役所防災対策課の皆様にもご協力頂いて事前研修を行って本番に備えた。訓練当日は、御坊市防災対策課から御坊市の被災情報等を本校生徒が取材し、臨時 FM で地域に呼びかけ、壁新聞を作成し、情報を地域に広める訓練を行った。

校外ツアーでは、道成寺と美浜町松原地区津波避難場所で行った。和歌山県最古の寺である道成寺では、本校生徒は主に海外生徒たちのアテンドを行い、宝仏殿を拝観し、縁起堂では住職から英語の絵解き説法を聞いた後、境内、本堂などを拝観した。美浜町松原地区津波避難場所では、美浜町長と美浜町語り部ジュニアによる歓迎のあいさつの後、本校生徒が海外生徒に対して、避難場所建設の経緯や備蓄倉庫、マンホールトイレ、かまどベンチの説明を英語で行い、マンホールトイレ、かまどベンチの組立て体験も行った。

参加者感想文

【地震・津波避難訓練】

- * 地震はとても長かったのでこんなに長い時間揺れが続くのかを感じた。また校舎の3階への避難もした。その時はとても人が集まり暑かった。夏だともっと暑くなると思うので、その時に合わせた適切な行動をとれるようにしたいと思った。(中2)
- * 文化が同じ人々だけなら迅速な動きができるが、異なる文化で、その場で何が起きているのか分からない状態で混乱している人々を誘導するのはとても難しいと思った。また誘導者が混乱すると外国人の方々はより一層パニックになってしまうのに加え、周りにも混乱が伝染してしまうのだということが分かった。だから私たちは冷静さが特に必要とされているのだということが理解できた。(中3)
- * 海外生徒を含む避難訓練はとても難しく感じた。放送後すぐ机の下に隠れ自分の身を守った。しかし思っていた以上に放送が長く、実際にもこんな風になるのだなと感じた。海外生徒はキョロキョロしていたが、私たちの行動を見て素早く同じ行動をとってくれた。この訓練で伝えることの大切さを感じた。(高1)
- * 今回の訓練でライフジャケットが以外と小さめにできていて、暑いと思ったので、避難時の気候によって色々に対応も変わるなと思った。例えば夏だったら汗や臭いなど、避難所の衛生環境も悪くなったりするので、常に先のことを考えて、災害の対策を考えたいと思った。(高1)
- * こんなに大規模な訓練を初めて経験して、改めて災害の怖さや対処の仕方、訓練の大切さなどを学ぶことができた。海外生徒と一緒に体験することでより真剣に取り組むことができたと思う。保育園児も小学生も日高高校に避難してきて本当に災害が起きたら、私たち高校生が率先して避難したり、助けたりすることが大切で、行動できるようにしたいと思った。(高1)
- * LHR 交流会で楽しんでいる最中に地震放送が始まり、とてもびっくりした。本物の災害もいつどのタイミングでくるのか分からないので、とっさに冷静な判断ができるのかとても不安になった。その後ライフジャケットを着用してグラウンドへ避難するのに、なかなか着用できない生徒もいた。だからこういう訓練は大切だと感じた。(高2)
- * 園帯同のボランティアに参加した。思っていたよりもスムーズに避難できたと思う。「訓練」ということで交通整理をしてくれている方も多くいて、安全確保がある程度されていたのに対し、実際は、園児はもちろん多くの地域住民も混乱すると思うので、もっと色々なことに注意を払う必要があると感じた。(高2)
- * 今回初めて海外生徒と一緒に避難訓練をして、言葉が違くと難しさが大きく増すのだと感じた。でも、こちらの身振り手振りや拙い英語で十二分に理解してくれ、初めてとは思えないほどスムーズに避難することができた。また訓練では、例年「歩いている人がいる」という反省は、僕が見る限りではとても少なかったと思う。来年度もこれを維持できればよいと思う。仮に大地震が発生した時、今回のように言葉が違う人がこの学校に避難してくれることも考えられるので、この訓練をした意義は大きかった。また今回出るであろう新たな課題を、次回克服することができるように取り組みたいと思う。(高2)
- * 事前学習を行ったことで避難訓練がよりよいものとなったと思う。喋っている人は少なく、小走りで避難できていた。教室では来た人から椅子や机を壁の方に寄せて教室を広く使えるようにし、集合しやすいようにすることができた。(高3)
- * 普段の訓練と違い、海外生徒がいたので喋ることも少なく、素早く行動できていたと感じた。ただグラウンドへ集合した時、喋っていたり笑い声が聞こえて先生の小さな声がさらに聞こえなかった。それは残念に感じた。主に3年生から聞こえてきているように感じ、1・2年からみると、3年生全員が喋るような人だと思われたと思う。(高3)
- * 日高高校の教室にいた時、避難経路を僕たちは知っているがそれを知らない海外生徒が数人いるだけで、いつもの2倍ほど時間がかかったように感じた。これは海外生徒というわけではなく、日高高校のことを知らないからであるので、地域住民が避難してきた際にも同じことがいえるのではないだろうか。(高3)
- * 毎年のことだが、避難経路が詰まってしまうためにグラウンド付近で迅速に動けなくなってしまふように感じる。災害時は速く避難したい人がほとんどで、転倒してしまうような人も出てくるのではないかと感じた。途中で怪我した人

への対応はどうすればいいのかなど、「自助」だけでなく「共助」の面での訓練に参加してみたいと思った。(高3)

【防災スクール】

- * 私は津波を実際に見たことがないし、もしそうなったらという想像があまりできない。訓練の時の実際に起こったと考えながらと考えつつも、「訓練」と安心してしまう部分があり逃げられる。でも実際に逃げられるのだろうかと考えたら不安になった。自分はそうできるのだろうか？ 今現実で地震が起こってそれが事実と受け入れられるのだろうか？ DVD を見て子供たちの姿から私たちもたくさん学ぶことがあった。その学んだことを生かしていきたい。また家族と話をする大切さを感じた。いつ地震が来てもすぐ行動できる人になろうと思った。(中1)
- * 防災スクールでは心肺蘇生法の訓練をした。心臓マッサージの仕方や手順などをしっかり学ぶことができた。実際にそういう場に合った時に勇気を出して心臓マッサージをできるようにしたいと思った。倒れている人の命は一分一秒遅れただけでも生存率は少なくなり、亡くなったりする時もあるので、その場の対応が一番大切だと感じた。また人工呼吸はその人の状態によってしなくてもいいことが分かった。それでも心臓マッサージを優先して躊躇せずに行うことが大切だと分かった。(中2)
- * 防災スクールでは、HUG を行う予定が英語では少し難しすぎたため、防災に関する質問から意見交換を行うことに変更した。会話、コミュニケーションは難しかったが、それでも辞書を用いたり、書いたりして伝え合えたのがよかった。相手国ベネズエラでは、大雨やそれに伴う洪水しか自然災害がないらしく、日本の防災意識の高さに感心してくれた。また警報やアラートの規格がないらしく、概ね日本の防災システムを理解してもらえたようで、日本の高い防災意識も同じように海外に広まればいいなと思った。(中3)
- * DVD を見て感じたことは、ただただ怖く感じた。なぜ1日も使って地震のことを勉強する意味が分かったような気がする。印象に残っているのは、僕たちはもう助けられる側でなく、助ける側だということです。そして自分の命は自分で守るということです。(高1)
- * 非常に役立つ経験だと思った。消火器の使い方などは案外理解している人は少ないと思うので、非常に重要な体験ができた。また、時間をかけてもっと力を注いで、今回以上の様々な条件や状況に対応した学習をしてみたい。例えば、避難後の水の確保の方法、どうやって救難信号を出すのかなど、やっておけば少なくとも損することは無いと思うので、是非とも可能であればやっておきたい。(高2)
- * 今回私は防災スクールを運営する側でした。海外生徒も参加ということで、事前に消防署に行

って打ち合わせをし、説明することの英訳を行った。だからより一層考えることが多くて大変でした。私自身、伝えることを通して処置の方法や搬送法をより学ぶことができた。また、この活動をしていく中で、私たち高校生が中心となれるんだということが身をもって感じた。(高2)

- * HUG をして外国人がけがをしている人、持病がある人などどこに配置すればいいのかとても難しかった。全員の要望を完璧に応えることは不可能であることが分かった。実際に自分たちで避難者の世話をするとすると上手くできないと思うので訓練の必要性を改めて感じた。(高3)

成果と課題

- 本校の中高生全員に防災学習を事前に実施したため、高い関心や意欲を持って訓練やスクールに取り組むことができた生徒が大半であったが、そうでない生徒も一部いた。
- 各年齢層の参加によって緊張感を持った訓練となり、それぞれが責任や自覚をもって行動することができた。
- 関係各所と防災や災害時に対する共通理解のきっかけ作りを、今回さらに深めることができた。
- 今回はスタディツアー共同開催であり、海外生徒、メディアや多くの関係者の方がいたので、緊張感のある訓練やスクールになったが、来年度もこれくらいの意識や雰囲気を取り組めるかが課題である。

防災学習



避難訓練①



避難訓練②



避難訓練③



避難訓練④



避難訓練⑤



避難訓練⑥



DVD 学習



起震車体験



パーティション組立撤去



おにぎり



心肺蘇生法



煙体験①



煙体験②



応急手当



消火訓練①



消火訓練②



消火訓練③



搬送法①



搬送法②



地域 HUG



HUG①



HUG②



HUG③



防災 FM①



防災 FM②



防災 FM③



校外ツアー①



校外ツアー②



校外ツアー③

